

庄内川水系について

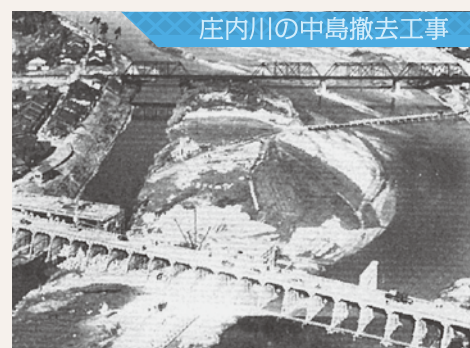
庄内川水系は、その源を岐阜県恵那市の夕立山(標高727m)に発し、愛知県と岐阜県の県境の山地を横断して愛知県に入り、春日井市と瀬戸市の市境を南西に流下し、名古屋市の西部を取り巻くように南流して伊勢湾に注ぐ河川である。愛知県・名古屋市は、庄内川水系の支川である管理河川の河川整備計画を策定するにあたり、愛知県内の庄内川流域を「庄内川上流圏域」「新川圏域」「堀川圏域」3圏域に分けた。庄内川の治水対策は、古くは江戸時代に、右支川の合流点付近の排水不良の改善と、本川下流部の洪水被害軽減等を目的に、庄内川右岸に新川洗堰を築造・分派し、ほぼ庄内川と並走して伊勢湾に至る新川の開削が行われた。庄内川の治水事業は、下流部においては、大正7(1918)年から愛知県により改修が始められ、川中村(現名古屋市北区)での矢田川の付け替えなどが行われ、現在の庄内川、矢田川の河道の骨格が完成している。昭和25(1950)年からは国庫補助事業中小河川改修として枇杷島の中島撤去をはじめ、河積の増大を図るため築堤護岸、掘削等を実施した。その後管理は国に引き継がれた。平成12(2000)年9月の東海豪雨により甚大な浸水被害を受けた新川は、河川激甚災害対策特別緊急事業の採択を受け、再度災害防止を目的とする河川改修事業を実施した。



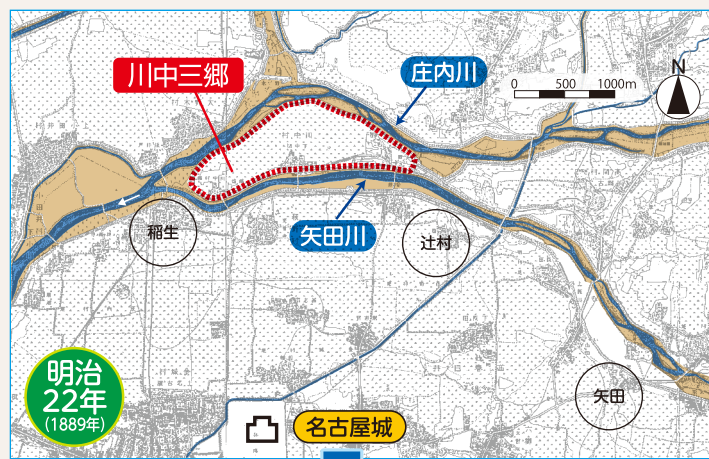
- 凡例
- 庄内川流域 (国土交通省)
 - 庄内川上流圏域 (愛知県・名古屋市)
 - 新川圏域 (愛知県)
 - 堀川圏域 (名古屋市)

庄内川(枇杷島付近)の「中島」撤去

- 中島は、庄内川河口から14~15km地点の湾曲した最狭窄部の右岸よりに位置する長さ約500~600m、最大幅約50m程度の中州であった。中島の中には、数棟の家屋や樹木も茂り、一部は耕地として利用されていたことから、安定した島となっていた。
- 中島の撤去は、昭和17(1942)年から始まった直轄改修施行時に、用地の一部取得が行われていた中、昭和25(1950)年から昭和33(1958)年にかけて、愛知県がさらに追加買収を行い、撤去工事に着手した。
- 撤去した土砂は、周辺の築堤、既設堤防の腹付けや嵩上げに利用された。



矢田川の河道付替と低水路工事



- 明治中期には、庄内川と矢田川に囲まれた成願寺・中切・福徳の3つの村は「川中三郷」と呼ばれていた。
- 昭和5(1930)年から昭和7(1932)年に矢田川の河道付替工事を実施した。辻町の北から庄内川と並行して西流させ、従前と同じ位置で庄内川と合流させた。
- 矢田川の上流地域からの流出土砂により流心が常に変動し、堤防への流水の衝突が著しいところが生じていたため、昭和25(1950)年から昭和33(1958)年に、庄内川合流点から香流川合流点の7km間を、流心の固定化を図る床固めの設置や低水路の整備を一般失業対策事業※として実施した。
- その後、矢田川の低水路整備は続き、平成10(1998)年に瀬戸川合流点下流に到達して完了する。

※【一般失業対策事業】：失業者に就業の機会を与えることを主たる目的として、労働大臣が樹立する計画及びその定める手続に従って、国自ら又は国庫の補助により地方公共団体等が実施する事業

